

# 「横浜型小中一貫教育」の推進 ～小中一貫カリキュラムの推進～

## ねらい

### 「横浜型小中一貫教育」とは

義務教育9年間の連続性のある教育の推進

敷地や校舎を共有するなどの物理的な条件に関係なく、小中学校の教職員が情報交換や連携を行い、義務教育9年間の連続性を図った小中一貫カリキュラムに基づく教育活動を推進すること。（「横浜版学習指導要領 総則」より）



### 「横浜型小中一貫教育」のねらい

「横浜教育ビジョン」で示した“横浜の子ども”の実現を目指し、小中学校の教職員の人的交流を促進して、「学力観」「指導観」「評価観」の共有を図り、授業改善の促進と学力向上を目指す。

義務教育9年間を円滑に接続させることで、小中学校間のいわゆる中1ギャップから生じる不登校問題等の今日的な児童生徒指導上の課題の解決を目指す。

小学校から中学校への進学時に学習内容や生活リズムの変化になじむことができず、いじめが増加したり、不登校になったりする現象。

## 背景

「横浜教育ビジョン」(平成18年)の中において、「知」「徳」「体」「公」「開」で示した“横浜の子ども”の実現を目指している。また、「横浜版学習指導要領 総則」(平成20年)の中で、義務教育9年間の連続性を図った「小中一貫カリキュラム」に基づく教育の推進を明示し、ビジョンの理念に向けた新たな義務教育の在り方を打ち出した。

教育基本法の改正(平成18年) 学校教育法の一部改正(平成19年)

中央教育審議会答申(平成20年1月)

「...学習内容も高度化する中学校は、小学校段階に比べ、授業の理解度が低下したり、問題行動等が増加したりするといった多くの教育課題を抱えている。このため、生徒が順調に中学校生活を始めることができるよう小学校と中学校の円滑な接続を図ることが極めて重要...」

「中1ギャップ」など小中の接続が最大の課題。背景としては、6・3制という現行の義務教育の区分が子どもの成長に合わなくなってきたことである。

## 今後の方向性

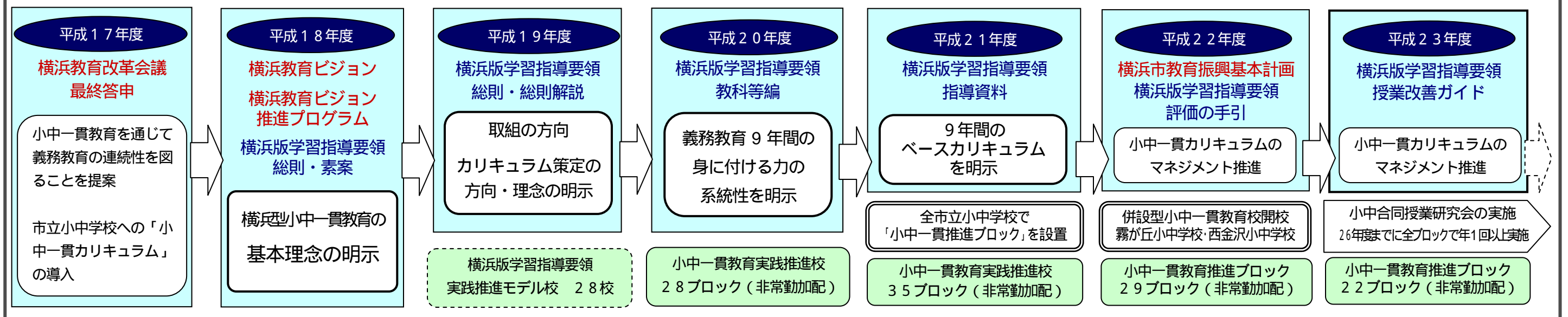
「横浜市教育振興基本計画」より

- ・ ブロックごとに地域特性を生かした取組テーマを設定し、小中学校の連携を一層強化し、学力向上と児童生徒指導の充実に取り組む。
- ・ ブロックにおける合同授業研究会を推進し、小中学校が学力観・指導観・評価観の共有を図り、授業力の向上を目指す。
- ・ 小中一貫した特色ある教育課程を編成し、小中学校間の連携を強めた小中一貫教育校の設置の拡充を検討する。

< 目標 >

「横浜版学習指導要領」に基づくカリキュラムの編成と実施 (小学校:23年度から、中学校:24年度から実施)  
小中一貫教育推進ブロックにおける合同授業研究会の実施 (26年度までに全ブロックで年1回以上実施)

## 経緯



## 「横浜版学習指導要領」と横浜型小中一貫教育

### 横浜型小中一貫教育の方向性

「横浜版学習指導要領 総則」において、「横浜教育ビジョン」で示した“横浜の子ども”の実現を目指して、小中一貫カリキュラムに基づく教育の方向性を示す。



- 小中一貫カリキュラムの役割**  
 学習指導や生活指導での重なりや隙間に配慮し、一人ひとりに応じたきめ細やかな指導を実現  
 いじめ・不登校など、子どもの心情に関わる今日的な課題の解決
- 小中一貫カリキュラムのとらえ**  
 義務教育9年間の子どもの学びの連続性を図るために編成  
 一人ひとりの子どもの学習状況に柔軟に対応
- 小中一貫カリキュラムの編成・運営・評価・改善**  
 「学力観」「指導観」「評価観」等の「教育観」を共有化  
 地域特性を生かした小中一貫教育の実現

### 小中一貫カリキュラムの基本

「横浜版学習指導要領 教科等編」において、全ての教科等で9年間に身に付ける力の系統を示し、小中一貫カリキュラムの基本を提示。



「しっかり教え、しっかり引き出す指導」  
 しっかり教える内容と方法、しっかり引き出す内容と方法を明示

**義務教育9年間で身に付ける力の明示**  
 発達段階に応じた身に付ける資質・能力の系統表

学習指導要領で示された内容を「基礎的指導内容・指導方法」とし、不十分な場合の「補充的指導内容・指導方法」、学習を深めたり広げたりするための「発展的指導内容・指導方法」の明示

### 市立小中学校のベースカリキュラム

「横浜版学習指導要領 指導資料」において、「総則」「教科等編」で示した内容・方法の実現を目指し、市立学校が基準とするベースカリキュラムを提示。



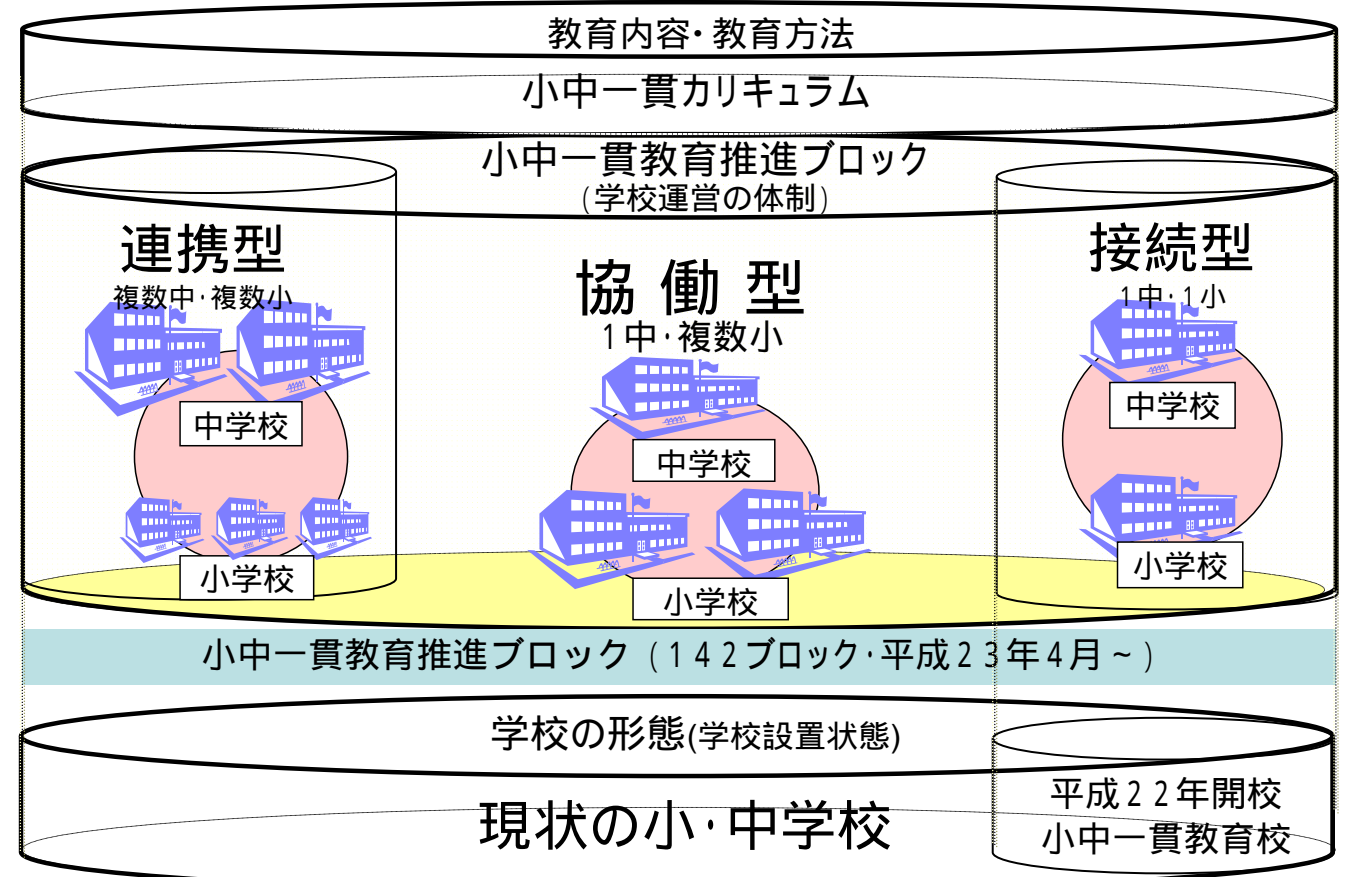
「しっかり教え、しっかり引き出す指導」のとらえ  
 教科等の指導の基本を丁寧に解説

**横浜型小中一貫教育を支える9年間のベースカリキュラムの明示**  
 各学校・各ブロックの年間カリキュラムとして位置付けることが可能

学校・ブロックの特性や特色及び子どもの実態に合わせて、カリキュラムマネジメントを推進

## 小中一貫教育推進ブロックと取組の具体

### 推進ブロックの形態



### ブロックの具体的な取組



教職員の連携の実際

- 小中合同研修会・授業研究会の開催
- 夏休みなどの長期休業中に合同研修会を設定
- 教科等ごとの分科会
- 義務教育9年間の連続性のあるカリキュラム編成
- 授業改善を目指した授業交流
- 互いの授業参観、出前授業等



児童・生徒の交流活動の実際

- 生徒会主催・小6対象中学校説明会
- 中学校生徒会が企画・運営した学校説明会
- 委員会交流・部活動体験
- 小6の中学校授業参観、授業体験
- 小中学生の合同授業
- 小学校での職業体験、一日先生体験
- 地域行事への参加(小中合同)